

(別紙)

令和6年度(令和5年度からの繰越分)障害福祉分野のロボット等導入支援事業 (施設等に対する導入支援) 事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 東京都

【基本情報】

フリガナ	シャカイケンホウジンヒツツブ
法人名	社会福祉法人一粒
フリガナ	スキナミクシモイワカラフルホーム
事業所名	杉並区下井草カラフルホーム
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
グループホーム	
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休・休職は除く)】	
18.5 人	

(1) 主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別: 移乗介護 排泄支援 入浴支援
 移動支援 見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数) マッスルスーツ、床走行式電動介護リフト

(2) ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (E×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)				
直接介護	8人	1 移動・移乗・体位変換	450件	5,400件	15分	10,800人時間	169時間
		2 排泄介助・支援		0件		0人時間	#DIV/0!
		3 生活自立支援(※1)		0件		0人時間	#DIV/0!
		4 行動上の問題への対応(※2)		0件		0人時間	#DIV/0!
		5 その他の直接介護		0件		0人時間	#DIV/0!
間接業務		6 巡回・移動		0件		0人時間	#DIV/0!
		7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)		0件		0人時間	#DIV/0!
		8 見守り機器の使用・確認		0件		0人時間	#DIV/0!
		9 その他の間接業務		0件		0人時間	#DIV/0!
		450件	5,400件	15分	10,800人時間	#DIV/0!	

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援
 ※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等
 ※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>B.ひと月当たり発生件数の算出方法

申請では440件でしたが、実際には450件の間違いでした。対象者は重複障害をお持ちの方4名となります。
 1人目 朝トイレ介助2回、夜入浴介助1回、トイレ介助2回、計5回×30日=150回
 2人目 朝トイレ介助1回、夜入浴介助1回、トイレ介助2回、計4回×30日=120回
 3-4人目 朝トイレ介助1回、夜トイレ介助2回、計3回×30日=90回×2人分=180回 合計450回

<※2>D.1件当たりの平均処理時間の算出方法

1件当たりの介助時間としては、移乗時間の労力となります。トイレですとベットから車椅子→車椅子から便器またその逆の介助時間となります。その際の平均時間として持ち上げる労力に手の位置、職員の手加減、利用者様のバランス保持等の総合的な動作を勘案した時間が1件当たり15分となっております。不安時には応援を呼ぶこともあり、この時間を超えることもあります。

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容	A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり業務時間 (E×D/A)	
		B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)				
直接介護	8人	1 移動・移乗・体位変換	450件	5,400件	10分	7,200人時間	113時間
		2 排泄介助・支援		0件		0人時間	#DIV/0!
		3 生活自立支援(※1)		0件		0人時間	#DIV/0!
		4 行動上の問題への対応(※2)		0件		0人時間	#DIV/0!
		5 その他の直接介護		0件		0人時間	#DIV/0!
間接業務		6 巡回・移動		0件		0人時間	#DIV/0!
		7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)		0件		0人時間	#DIV/0!
		8 見守り機器の使用・確認		0件		0人時間	#DIV/0!
		9 その他の間接業務		0件		0人時間	#DIV/0!
		450件	5,400件	10分	7,200人時間	#DIV/0!	

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※3>B.ひと月当たり発生件数の算出方法

申請では440件でしたが、実際には450件の間違いでした。対象者は重複障害をお持ちの方4名となります。
 1人目 朝トイレ介助2回、夜入浴介助1回、トイレ介助2回、計5回×30日=150回
 2人目 朝トイレ介助1回、夜入浴介助1回、トイレ介助2回、計4回×30日=120回
 3-4人目 朝トイレ介助1回、夜トイレ介助2回、計3回×30日=90回×2人分=180回 合計450回

<※4>D.1件当たりの平均処理時間の算出方法

上記支援時間に対して、トイレ介助についてはマッスルスーツを活用しての移乗支援、入浴介助については移動式リフトを活用しての対応を行わせていただいた結果、一番の理由として力加減であり、支える際の動作に余裕が生じ当初の予想通り時間が短縮された結果となりました。約5分の短縮であり、上記の機器がない状態より安心して一人で行える、誰か助けを呼ぶこともなくなるようになりました。

年間業務時間数想定削減率(%)

33.3%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

やはり介護ロボットにおけるサポート技術が向上したことで、本来2人がかりで行うことや、1人でかかる技術時間が補助機器により安心して行われること、痛みを気にすることなく今度は時間も軽減されているということが導入効果で結果が出たということになります。生身で介助を行うことへの限界であり時間も浪費していることが判明しました。予算も関係してくるものではありますが今後も利用者様のために悩むより試してみることを進めていきます。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

今回の導入により、一番効果的だったのは腰痛防止になります。時間削減も運動してありますが、利用者様の体重増加、職員の体力低下などが要因にあり、導入後は職員も安心して支援にはいれること、利用者様も職員に余裕があることから安心度合いが伝わり満足度が向上しております。現在は男性職員がその恩恵を受けておりますが、女性職員にも幅広く活用していただくよう広めていきたいと思っております。

(5)今後の課題

移乗に関する課題はまずはクリアできましたが、老若男女の職員を抱えていくことを考えると、さらなるアシスト的な介護ロボット機器は必要になるかと思っております。見守り機器も含め、年々進化する機器を把握しながら、現場に生かせる選定を行っていきたくと考えております。

(6)気づき等について

マッスルスーツは装着までが時間を要する点もあり、慌てずしっかりと装着しないとその恩恵を受けられないこと、再び腰痛が悪化することもあるので各職員へのゆとり時間の意識づけが必要と感じております。移動式リフトも同様で手間イコール安全な移乗・移動なので、繰り返し研修会を開き初心に立ち戻るよう心掛けていきます。

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減	無
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円/月)	
職員の賃上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当(※1)	
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

介護保険分野においては、生産性向上委員会たるものが実施されておりますが、障害分野におきましてもそれに習った形で環境改善の取り組みであり、いままで気づけなかった利用者様の状態を把握していくこと、他にも気づきができるのではないかとサービスの向上も話し合っていくよう進めていきたいと思っております。

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。

介護技術の向上が図れたことで、日中及び夜間の過ごし方が改善されているか、健康状態にどのような変化・影響があるのかも確認していくようにしていく。